

## 第5回「ゆめづくりまちづくり賞」受賞作品の概要

### <優秀賞> 3団体

#### ◆「もったいない」の心を次世代につなぐ

【京都府】  
(京田辺エコパークかなび)

家庭からのゴミではなく、不要品として市民から提供された品を、丁寧に点検・清掃・修理(リフォーム)により再び息を吹き込むことで、リユース品として行き渡る仕組みを確立している。活動メンバーの得意分野を活かし、着物のリフォーム、古着から布草履の作製など、不要品による作品づくり教室が好評。見違える商品に生まれ変わる工夫が、活動のモチベーションアップにもなっている。取扱量は年々増え、商店街の空店舗にも活動拠点を開設し、「3R」の推進に寄与。リユース品の格安販売が盛況で、売上金は東日本大震災に係る寄付や、市の太陽光発電設備費用の一部に充当するなど社会貢献している。この他、市とともに親子環境教室や、小学生4年生対象の「子どももったいない」ポスター展を展開しており、子どもへの環境教育にも積極的に活動している。



リユース品を安価で販売



不要布で作る布ぞうり教室



小学生の体験教室  
(ペットボトルキャップ選別)



「もったいない」子どもポスター展

#### ◆協働ですすめる防災活動

##### ～竹あかりの集い～(子どもたちを防災ずきんで守りたい)

【奈良県】  
(平群町ボランティア連絡協議会)

中学生がボランティアで「防災ずきん」を製作し、阪神淡路大震災の犠牲者を追悼する「竹あかりの集い」にて、防災啓発を踏まえ小学生にプレゼント。中学生は小学生を守るという自覚が目覚め、小学生は地域からも守られてるという安心感に満たされる。一般的に、中学生は地域づくり活動に取込みづらいが、中学校の施設(家庭科室・ミシン機材)を「防災ずきん」製作に利用したことがきっかけで、中学生と地域活動との接点生まれ若い力が加わり活動が軌道に乗った。最近では30歳代の子育て世代も活動に参画する他、町の防災出前講座が年々増加しており、地域の防災意識の広がりにも貢献している。現在は、新しい取組みとして「防災かまどベンチ」づくりにも着手しており、地域防災力の発展が伺える。



中学生と連携して防災ずきんづくり



中学生から小学生へ防災ずきんの寄贈



「竹あかりの集い」の様子



「防災かまどベンチ」の実施調整

◆アレルギー・アトピー患者やその家族が  
 明るいアレルギー生活を過ごすための地域づくり 【大阪府】  
 (大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル SmileSmile)

活動のきっかけは、親子のアレルギーの悩みを地域の保健センターがフォローしたところから始まった。ここで集積されたアレルギーに関する知識を地域で共有し、行政(各関係機関)への積極的な働きかけにより、互いに協働し、地域で守る体制へ発展。アレルギーやアトピー体質の子どもでも、家庭や学校や地域で楽しく快適に過ごせるための活動は、快適な都市を実現させる取組み。アレルギー・アトピーに悩む人だけの閉鎖的な活動でなく、「あそびうたコンサート(子どもの笑顔プロジェクトat大阪狭山)」のように家族や地域を巻き込み、当事者やその家族が前向きに生活できる事を願い、活動している。連続講座、定例会、電話相談など、活動では参加者が笑顔を決やさない雰囲気としている点が継続の秘訣。活動を通して地域に感謝と絆が深まっている。



給食センター発案の米粉カレーライスの調理実習



情報交換・交流の場



あそびうたコンサート



アレルギー発作時の応急処置を学ぶ(消防署と協働)

< 奨励賞 > 1 団体

◆日本四大漆器産地の一つ、和歌山県海南市黒江の  
 町並みを活かした景観づくり活動 【和歌山県】  
 (黒江の町並みを活かした景観づくり協定運営協議会)

海南市黒江地区では、以前に何度か町並み保全の取組みがあったが、行政主導で行われたことから、これまでは十分な成果を上げることができなかった。しかし、今回は「このままでは黒江の町並みが子どもたちに残せない！」と危機感を抱いた地元住民が立ち上がり、町の歴史的景観を守ろうと、住民同士で「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」を締結※1。また、同地区以外からも景観づくり活動に参加できる仕組みとしてサポーター制度[黒江ジャパン※2]を導入。こうして、地元住民とサポーターが一体となって、家の軒先の三角地に「くろめ桶」を設置し黒江らしさを演出する工夫や、紀州漆器の蒔絵体験やまち歩きなど地域の子どものための郷土教育の実践の場として町並み空間を活用。さらに、県内外の景観づくり団体との交流も積極的に行うなど、活動の輪が広がり、まちづくりの機運が盛り上がりを見せている。

※1: 知事認定第1号となった(わかやま景観づくり協定)

※2: 漆器は英語で『japan』と標記される



景観づくり団体と意見交換会



地元語り部ボランティアによるまち歩き調査(郷土教育)



紀州漆器の蒔絵体験(郷土教育)



漆器店から提供されたくろめ桶で地域の魅力向上